

大阪の本社と、本店のある小松市を行ったり来たり生活という。いつも華やかな服装に、スーツケースを携えて動き回る颯爽とした身のこなしが印象的だ。昨今の電力事情について話を振ると、普段の明るい表情が少し厳しくなった。

「電力は言うなれば産業のコメ。このまま値上げが続けば、崩壊してしまう」

生産コストに占める電力の比率が高い繊維業界を案じ、全国を飛び回って関係団体へ直談判を重ねる。「業界全体のためって言ったら、えらそうやけどね」と笑う。

新素材でミラノ出展

主力のカーテン事業のほか、独自の分織技術を生かした極薄の生地「オーガンザ」は、東京五輪の開会式で国歌を独唱した歌手MISIAさんの衣装に起用されるなど、パレル業界で引き合いが高まっている。

炭素繊維複合材料「フレックスカーパーボン」を使い、アンククスと共同開発した短距離用シューズは、東京五輪で陸上男子に出場した桐生祥秀選手が使用していたことで話題を呼んだ。次なる一手はあるのだろうか。

「今は炭素繊維でイスを開発している。用途を新たに広

革新なくして成長なし

サンコロナ小田 小田外喜夫 社長

経済人
そこが聞きたい



炭素繊維ブランド、世界に

げ、切り口を見つけていきたい」と前のめりだ。

リサイクル可能なフレックスカーパーボンは、環境配慮型の素材として世界的な販売を見据える。4月にイタリア・ミラノで開催の国際家具見本市「ミラノ・サローネ」でお披露目する予定だという。「今回は初めて自社のブランドとして世界に発信することになる。未体験のゾーンだね」。

新たな挑戦を続ける原動力は何だろうか。

「ビジネスはイノベーション(技術革新)なくして成長しない。いかにお客さんの役に立つかという観点で、技術革新を日々やっていないと、お客さんは飽きちゃうからね。社員にも夢を持って挑戦してほしい」

「君とはなんぞや」と急に問われ戸惑っていると、小田社長は「ほくは『夢だらけ』や」とのこと。今の夢は何か。「やっぱり繊維で生きてき
もう1つ時間を作っているという。自分を見つめ直すことで個々の目標や夢が明確になり、個が生きていければ、組織も活性化するという考えらしい。」

夢だらけ

サンコロナ小田(本店・小松市、本社・大阪市) 1955(昭和30)年に小田合織工業として創業。グループ会社として75年にサンコロナ設立。88年に小田合織工業の事業を引き継いだ小田ゴウセンを設立した。2013年にサンコロナと小田ゴウセンが合併し、現社名となった。22年6月期の売上高は126億6800万円。

おだ・ときお 小松市出身。日大生産工学部卒後、小田合織工業に入社。1975年にサンコロナを設立し、2013年から現職。77歳。

たから、これからも、繊維でもつけられると証明したい。新しい市場をつくっていく」

経営方針には「イキイキハートのイキイキ経営」を掲げる。喜寿を迎え、病氣ひとつしていないという自身のことは「立ち止まったら最後の『イキイキ病』や」と笑う。叶えたい夢はまだまだ尽きないようだ。(経済部・吉川祐未)